

平成 18 年度 A 級修了研究レポート

「生涯学習者の発表の場について」

～ 学習者と発表の場をつなぐ情報ネットワーク創りの企画～

活動地域：横須賀市

(財)音楽文化創造認定 生涯学習音楽指導員

津野 久美子

「生涯学習者にとって発表会の意義について」

～学習者と発表の場をつなぐ情報ネットワーク創りの企画～

18A-1183 津野 久美子

本レポートは、生涯学習者にとっての大きな学習効果がある“発表の場”をどのように広げていくかを行政側の支援と学習者の意識を調査し、望まれる“発表の場”を考察した。

第1章では、横須賀市の生涯学習音楽活動を横須賀市生涯学習財団のホームページや、公民館の「友の会」の担当者から話しを聞くなどの調査をした結果、音楽活動する団体数は多いが、公民館文化祭などに参加する団体が減りつつあるという現状がわかった。

そこで第2章では、“発表の場”に対する行政支援とその利用状況を(財)横須賀市生涯学習財団の「経営状況説明書」で調べた。このことから行政側の支援はこれで充分なのだろうか、学習者側にとってもっと他に欲しい支援があるのではないだろうか、という課題を提示した。

第3章では、学習者にアンケート調査をし、その団体の代表者に話しを聞くことで、第2章で浮かび上がった課題を考察した。その結果、公民館文化祭のような“発表の場”ではなく、社会参加、社会貢献につながる“発表の場”を希望する声が多かった。高齢者施設や地元の敬老会などでボランティア活動を“発表の場”としたいという結果だった。しかし、その場をどのように開拓しコンタクトを取るのかわからないと、足踏みをしている状況があった。また、ボランティアを受ける側にも話しを聞くと、生涯学習者による演奏を歓迎したい、発表の場を提供したいということであった。

第4章では、これらのことを受けて学習者と発表の場をつなぐ情報ネットワーク創りの企画を提案した。この学習者と発表の場、相互の情報をひとつにまとめた窓口「サークルと発表の場を結ぶ情報コーナー」が、活用され将来的にはボランティア演奏だけでなく、市民まつりや行政主催イベントなどにも広げて、生涯学習を意欲を持って継続し、生涯学習が街づくり・人づくりにつながる可能性があることを述べた。

目次

はじめに 1
第 1 章：横須賀市における生涯学習音楽活動の状況	
(1) 「yokosuka まなび情報」にみる音楽系団体の数 3
(2) 公民館『友の会』にみる音楽系団体の数 3
第 2 章：行政事業としての発表の場	
(1) 発表型学習とは 5
(2) 公民館利用の発表型学習の実施の状況 5
(3) 発表型学習にたいする横須賀市の支援状況 6
第 3 章：発表型学習の課題	
(1) 指導者の意識 8
(2) 学習者の意識 9
(3) 提供者側の意識 11
第 4 章：学習者と発表の場を結ぶ情報ネットワーク創りの企画	
(1) 提案の動機 12
(2) 企画書 13
(3) 今後の展望 14
おわりに 15
注 17
参考文献 18
参考資料 19

はじめに

生涯学習は人々に生きがいや有意義な時間を与える。なかでも集合学習は人との交流を通じて特別な学習効果を期待できる。“音楽”の生涯学習は練習の積み重ねを必要とするが、練習の先に発表会という目標があると日常の学習の励みとなる。そして、時に辛い苦しい練習も仲間の存在に支えられ、発表会を無事に済ませたときの達成感、充実感はさらに学習意欲を高める。

私は生涯学習音楽指導員として単に音楽学習の講師として教えていればよいのだろうか。音楽そのものを教えることも大切であるが、音楽の持つもっと大きな力や喜びを共感できる講師でありたいと思う。また、アンケート調査やインタビュー調査をしたことにより、“発表する”ことが学習者にとって「学習」以上の特別な意味を持ち、さらにその発表が社会参加につながるものでありたいとの要望が強いことがわかった。しかしこの“発表する場”を見つけ出すことが困難であり、ボランティア演奏の希望がありながら、なかなか実現しない現状であった。それは学習者と発表の場をつなぐパイプがないために、ボランティアを受けたい側としたい側が足踏みをしているのである。橋渡しをする情報コーナーがあれば、学習者の「ボランティア演奏で社会参加」がもっと活発に行われるのではないかと強く感じ、それを創るプロジェクト企画をした。

第1章では、横須賀市において現在、生涯学習がどのような状況であるのかを、(財)横須賀市生涯学習財団発行の「経営状況説明書」で調べた。また、市内に9箇所ある公民館に出向き、または電話で、『友の会』と呼ばれる公民館利用団体連絡会の担当者に現状を尋ねた。この聞き取り調査は数字だけでは見えてこない現状を知ることができ、考えさせられるものがあった。

第2章では、学習者にとっての発表の場がどのくらいあるのか、そして行政の支援はどのようになっているのかを(財)横須賀市生涯学習財団発行の「経営状況説明書」で調べた。これで気付いたことは財団法人 実務教育研究所の「生涯学習指導者養成講座」では、集合学習を集団学習(体験型)と集会学習(観賞型)に分類しているが、もうひとつ『発表型学習』という形の学習型があることだ。これは、おもに学習者の発表会やイベント参加にあたる公民館文化祭などである。そしてこの公民館文化祭などの発表型学習にたいする行政の支援状況を述べ、学習者にとってもっと必要としている支援があるのではという課題を提示するきっかけとなった。

第3章では、学習者にアンケートをとり、サークル代表者や指導者にインタビュー調査をした結果とそこから読み取れる発表型学習のあり方を考察した。

当初、発表の場が少ない現状があるのではないかと想像していたが、結果は指導者や代表者によっては市民イベントや合同発表会などの“発表の場”を多く持ち活動している様子がうかがえた。さらに学習者には発表の意欲があることもわかった。その意欲は公民館文化祭のように発表さえできれば満足というものでなく、発表による社会参加、社会貢献を望むものであった。しかし、“発表の場”と“発表したい学習者”の情報をまとめた窓口がなく、アクセス方法に苦労している現状をインタビュー調査で聞くことができた。また逆に公民館の担当者からはイベントの出演団体探しの苦労話を聞くこともあったし、高齢者施設側からボランティア演奏を依頼することが非常に困難である現状も聞いた。

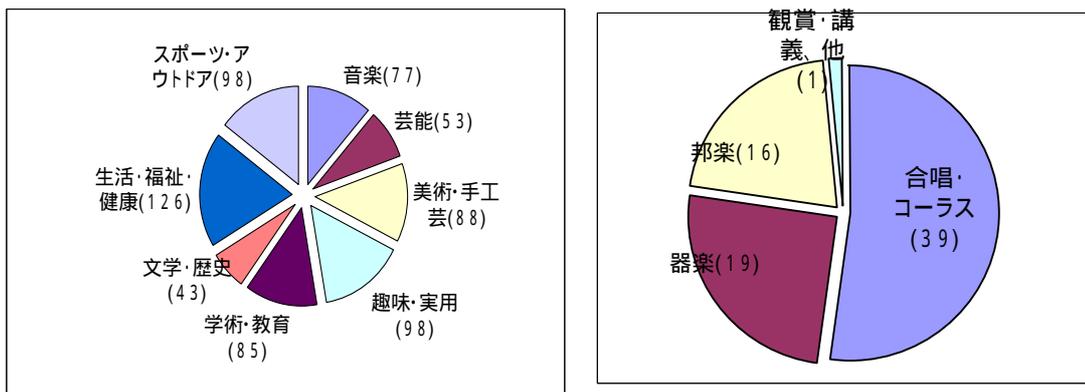
第4章では“発表の場”と“発表したい学習者”の情報をうまく提供できる窓口の整備の必要性を述べた。ここでは希望の一番多かったボランティア演奏の場の情報ネットワークを整備し、提供することを企画した。将来的には公民館文化祭や市民まつりなど市主催の行事の演奏の場の情報と、演奏希望のサークルの情報もあわせて提供し、生涯学習者に活用される情報窓口設置、“音楽”を通じて生きがいとなる“学習”が進められる環境の整備をすすめるプロジェクトを提案する。

第 1 章：横須賀市における生涯学習音楽活動の状況

(1) 「Yokosuka まなび情報」にみる音楽系団体の数

横須賀市にはどのくらい生涯学習として音楽活動をする人がいるのであろう。横須賀市生涯学習財団のホームページの「Yokosukaまなび情報」を検索すると音楽活動をするサークルが平成 19 年 5 月 20 日現在 77 団体登録されている⁽¹⁾。生涯学習サークル情報全体からみるとサークル総数 570 のうち、77 団体 13.5%が音楽サークルにあたる。そしてその分野は観賞や講義を聞くという形はわずか 1 団体で、自らが体験する学習で占められている。(図 1 を参考)

図 1 . Yokosukaまなび情報にみる音楽サークルの数と種類

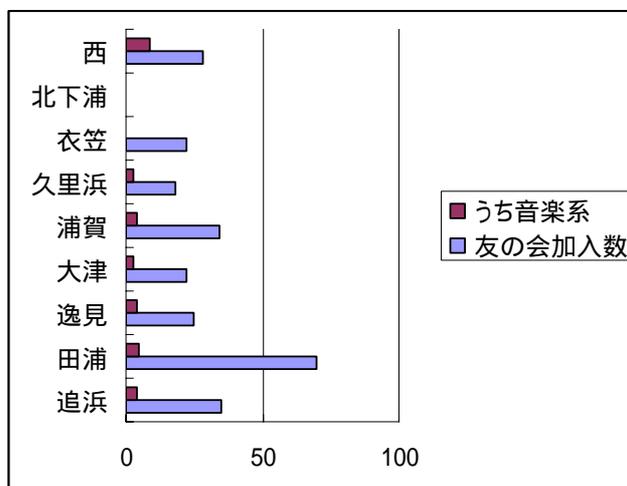


(2) 公民館『友の会』にみる音楽系団体の数

横須賀市では各公民館を利用するには団体登録をする必要がある。この団体登録数は、公民館ごとに 500 ~ 200 団体であるが、現状は生涯学習をしている団体数の正確な数字は不明である⁽²⁾。

そのうち 1 箇所の公民館を活動拠点とし、他の団体とも交流を持ち公民館文化祭を行っているのが『友の会』である。公民館『友の会』は、市内 9 箇所に

図 2 . 『友の会』にみる音楽系団体数



ある公民館がそれぞれ持ち、利用団体の連絡会のようなもので、その公民館を利用する団体が任意で登録する。『友の会』加入団体が全市で 254 あり、そのうちの 34 団体が音楽系である。公民館を利用する団体は必ず団体登録をする必要があるが、任意である『友の会』加入は各公民館とも団体登録の 1 割弱であるらしい。よって、『友の会』未加入であっても、熱心に音楽活動する団体は少なくない。その数は未確認であるが、『友の会』にみる音楽系団体が 13.3% であり「Yokosukaまなび情報」でみる音楽系団体が 13.5%⁽³⁾ とほぼ同じであることから推察すると生涯学習全体の 1 割強が音楽系団体であると推察する。

では、なぜ『友の会』に加入しない団体が多いのか、公民館の担当者に聞いた。歴史は長い所で 50 年、短い所で 20 年、公民館設立とほぼ同時に『友の会』を発足し、公民館文化祭を中心に各団体の交流を支えてきた。しかし、最近では退会する団体もある中、新しい団体の加入はなく、メンバーの高齢化が進んでいる。公民館文化祭もマンネリ化しており見直しの検討が必要である。また、未加入の団体にその理由を問えば、『友の会』の役割分担や連絡会議出席などが重荷であり、公民館文化祭に魅力はないという。

時代が代わり、人々の考え方や学習方法が変化している今、生涯学習者にとって魅力ある“発表の場”はどういう形であろうか。生涯学習を支援する新しい方法が必要であろう。

第 2 章：行政事業としての発表の場

(1) 発表型学習とは

生涯学習の方法は、表 3 のように集合学習・個人学習・個人教授の 3 つにわけられるという⁽⁴⁾。

表 1. 財団法人実務教育研究所「生涯学習指導員養成講座」第 単元 P.30 より

集合学習	集団学習・・・学級・講座・教室、グループ・サークル活動など 集会学習・・・講演会、演奏会など
個人学習	学習媒体を利用して一人で行う学習・・・図書、放送などを利用 社会通信教育 施設利用の学習・・・図書館、博物館などの利用
個人教授	けいこ事など

集合学習を中心にまず、横須賀市生涯学習財団の行った事業で過去 3 年間の音楽系事業を「集団学習」と「集会学習」にわけてみた⁽⁵⁾。「集団学習」を歌う、楽器の演奏の実技を中心とした学習なので「体験型」、集会学習は、人の演奏を鑑賞する学習であるから「観賞型」とした。しかしもうひとつ公民館文化祭に代表される発表する学習方法があり、これを「発表型」として「体験型」「観賞型」あわせて 3 つに分類して考察することにした。この「発表型」は集団学習の延長であるには違いないが、参加する期待感、緊張感、達成感、充実感などが通常の学習方法より大きく、学習者にとって大きな意味のあるイベントであると考えからである。

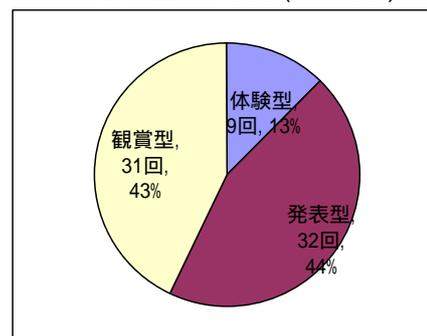
表 2. 集合学習の方法の種類

集合学習	体験型	講座、教室、グループ、サークルなど
	観賞型	講演会、演奏会など
	発表型	自らが発表する場

(2) 公民館利用の発表型学習の実施の状況

財団法人横須賀生涯学習財団の経営状況説明書、平成 15 年度・16 年度・17 年度の公民館運営事業をみると⁽⁵⁾、体験型は事業実施回数・参加人数ともに少いが、発表型と観賞型はほぼ同じ回数実施し

図 3. 発表型の割合(3 年間)



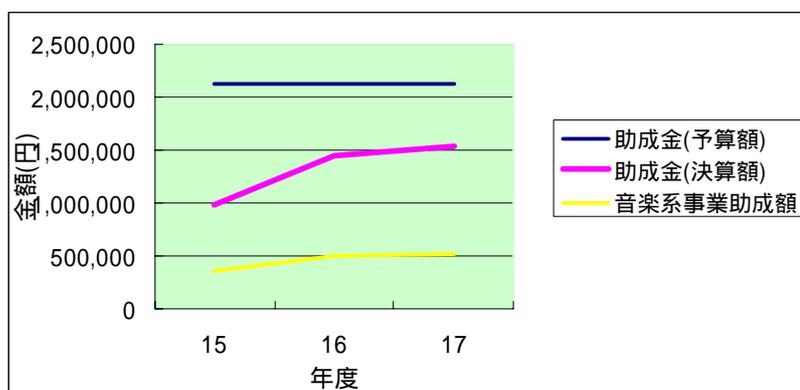
ている(図3)。公民館文化祭の他には、15年度に3回、16年度に2回、(17年度は実施がないが)市民の学習発表会として、いずれもコーラスの発表会が実施されている。

参加人数は17年度を例に挙げると発表型12,863人、観賞型1,973人と圧倒的な違いが見える。これは公民館文化祭の参加人数の場合、音楽発表だけでなくあらゆる分野の生涯学習の参加者がカウントされるためであるが、偶発的であったとしても音楽系団体以外の人たちが観賞する機会を持つという点で「観賞型」の学習という要素も含んでいると考えられる。

(3) 発表型学習にたいする横須賀市の支援状況

この発表型学習に対して行政側は、会場の提供や公民館文化祭実施などの形で文化推進活動を支援している。また、生涯学習財団の後援名義使用状況からみると、15年度10件、16年度13件、17年度13件の演奏会およびセミナーを承認し後援している⁽⁶⁾。後援名義とは予算的には支援されないが、演奏会等のチラシ・ポスター・プログラムに“後援：横須賀市生涯学習財団”と記載できることでバックアップを受けられる。ある団体の代表者は“後援”の文字があると会の重みが違うと積極的に後援名義使用の申請をすると語った。

図4. 文化生涯学習助成金の推移



予算面では文化生涯学習活動事業助成から文化活動支援状況を見ると15年度は4件、16年度7件、17年度6件の市民団体の独自に行う演奏会

等を支援している⁽⁷⁾。図4でみてとれるように、文化生涯学習全体額の約3分の1を音楽系の事業に当てられている⁽⁸⁾。

予算額は3年間変わらないのに対して、実際に助成された金額は増えており、生涯学習の発表型学習の機会は増えつつあると、推察される。

以上のような行政側の支援のほか、「まなびかんニュース」の発行、ホームページの充実など、学習者にとって活用すべき支援はある。しかし、これで充分だということではなく、見直しの必要な課題もあるように思う。

本レポートで述べる“発表の場”の視点からみると、第2章で述べた「友の会」による公民館文化祭の他に、学習者が進んで参加したい“発表の場”はないであろうか。生涯学習活動事業助成金や後援名義を申請するほど大きな発表会でなく、小さな団体が、小さな会場で、もっと身近により多くの“発表の場”を持てるような、支援を考えたい。

図 5 . 学習の目的表

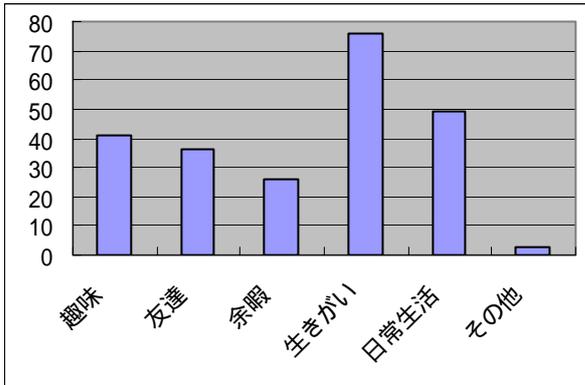
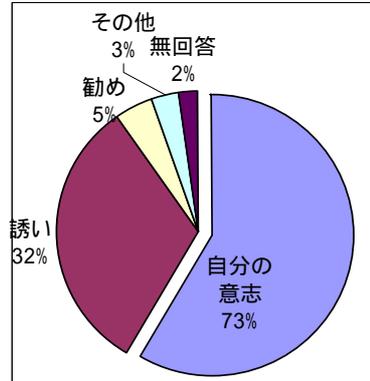


図 6 . 音楽サークルに入ったきっかけ



さらに、発表することについて励みになるかどうかを聞いたところ 86 パーセントが励みになると答えている(図 7)。そして、他人の発表によって自分の学習意欲に刺激を受けたという回答は刺激を受け実際にその音楽学習を始めたという回答まであわせると 86%にもなる(図 8)。これは発表型学習が、学習継続だけでなく学習をはじめきっかけになる大きな効果を持っているといえる。

図 7 . 発表は励みになるか

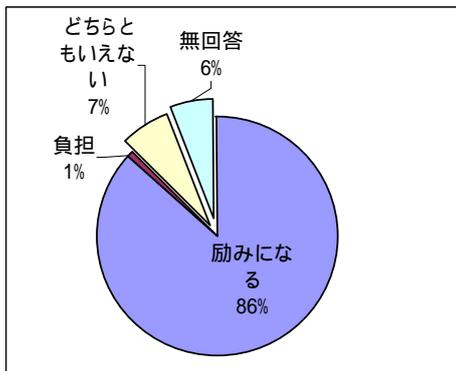


図 8 . 人の発表から刺激を受けたか

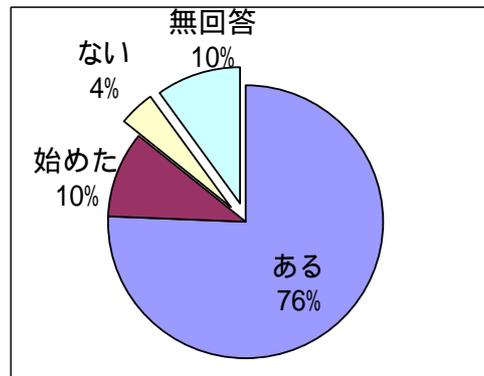
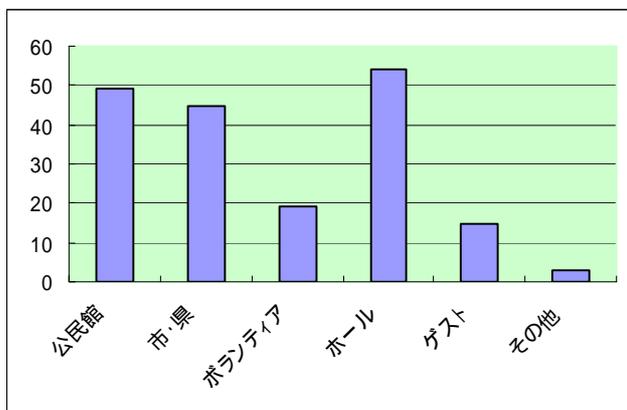


図 9 . 経験した発表の場



では、どのような発表型学習に参加しているのだろうか(図 9)。会場がホール利用というのはその会が独自に行う発表会が多いことを示している⁽¹¹⁾。市や県、または町内会など公的なイベントにも積極的に参加している様子が見えてくる。公民館での発表は文化祭参加である。

希望をみると、ボランティア演奏が多いことに気付く(図 10)。ボランティアを兼ねた発表や、市や県、または町内会など公的なイベントへの参加希望は、生涯学習の結果を社会に還元したいということなのではないだろうか。

公民館文化祭が手軽に参加できる発表の場であるはずなのに、ボランティアより希望が少ないのは、発表の場としては「友の会」という制約から閉鎖的であること、そして自分たちの発表という自己満足の域をでないからなのではないだろうか。自分の生きがいとしてはじめた学習が、社会参加につながることでより意義ある生涯学習となることに学習者自信が気付いているのである。

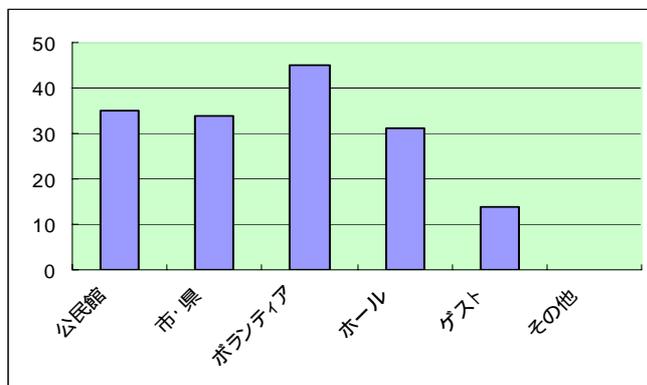
行政が文化推進活動として支援する公民館文化祭は、一時代前なら有意義であったが、時代の変化に伴い公民館文化祭は見直しを迫られているのであろう。「友の会」のあり方について検討の必要とある窓口の担当者は語っていたことから、それを行政側も感じていると思われる。

(3) 提供者側の意識

高齢者施設などボランティアを受け入れる現場サイドの声として、地域ケアプラザの介護福祉士に話を聞いた。マンネリ化した日常のなかで、外部からボランティアが来ることはとても楽しみなこと。それは、プロのように一流の演奏である必要はなく、楽しめるプログラムであれば大歓迎。懐かしい曲を聴く、一緒に歌う、口ずさむ、リズムを楽しむ、思い出に浸る、懐かしむ、など反応はそれぞれだが、施設利用者のほとんどの方がボランティアに来てくれることを望んでいる。しかし、交通費さえ出せないことを考えると、高齢者施設側から依頼のコンタクトは取れない、申し訳なくできないのだそうだ。年1回の大きなイベントに今までに快く来てくれたボランティアの方をお願いしてみることがあっても、新しいボランティアの方には声は掛けられず、「ボランティアで伺いたい」の申し出を待つしかないのが現状とのことだった。

また、市役所・元福祉課課長に学習者の意識を伝えると、ボランティアというのは、する側から積極的に申し出るものであって、依頼を待っていては、何も動き出せないのだから、学習者側からの積極的にコンタクトをお願いしたいとのことであった。

図 10 . 希望の発表の場



第4章：学習者と発表の場を結ぶ情報ネットワーク創りの企画

(1) 提案の動機

アンケート調査やインタビューによる現場の生の声は予想外の結果であった。学習者は公民館などよりもっと音楽環境のよいホールでのステージ発表を希望しているのではと想像していたが、ボランティア演奏を希望する声のほうが多い結果がでた。それは公民館文化祭や会独自の発表会での充実感より、町内の敬老会や高齢者施設、学童保育のような地域性の高い場での発表に生きがいを感じるということではないだろうか。身近な場所で学習したことが生かせる発表の形を望んでいるのである。この希望をサークルの指導者あるいは代表者はわかっていながら、発表の場を探しあぐねている。口コミや情報網が乏しいと動き出せないでいる。

また、高齢者施設や病院などではボランティアに来てくれる音楽団体を歓迎したい、依頼したいと思っている現状がある。そこにはボランティアという本質から申し出を待つしかないという苦しい立場であることが壁になっていると感じた。

このようにボランティア演奏を希望する学習者がたくさんいて、ボランティアを必要とする現場もあるのに、情報がお互いにうまく伝わらないために、どちら側も一歩が踏み出せず苦労している。両者をつなぐパイプをどのように結んだらよいのだろうか。そこで、お互いの情報をつなぐネットワークを作ること企画した。元福祉課課長が言うように積極的にボランティアは申し出る勇気が必要である。そこで、少しでもボランティアする側の手が挙げ易いようなシステムを作ることにはできないだろうか。学習したことが生かされ、更なる学習意欲につながり、その学習をボランティアという形で生かし、“街づくり・人づくり”につながる生涯学習を実現したい。

今ある後援名義使用や文化生涯学習活動事業助成、公民館文化祭実施支援と同じように生涯学習の支援のひとつとして発表の場の情報整理・提供を提案する。時代の変化とともに学習者の意識が変化している今、学習したことを生かす“発表の場”がボランティアと結びついて社会参加・貢献できるようなパイプとして学習者と発表の場、相互の情報をひとつにまとめた窓口「サークルと発表の場を結ぶ情報コーナー」を設けることを提案する。

(2) 企画書

項目	具体的内容	その他
タイトル	音楽ボランティア情報のネットワーク作り	
企画意図(動機・目的)	生涯学習音楽活動を社会に生かすための情報の整理と発信	
対象	学習者側：横須賀市を中心に活動する生涯学習音楽団体・サークル 発表の場提供者側：横須賀市内の高齢者施設・福祉施設 病院・学童保育・子ども会・敬老会など	
テーマ	社会貢献につながる発表の場をめざして	
到達目標	学習者側 生涯学習の活性化 個人的には意欲・継続性の増長 発表の場提供者 ボランティア演奏会による慰安。 社会的に 文化振興「発表の場」の充実 優しい街づくり、人づくり	
方法・手段・スタイル	各団体にダイレクトメールによるアンケート調査 ・ ボランティア演奏をしたい側 ・ ボランティア演奏をしてほしい側 情報の整理 情報誌の作成 ホームページの開設 情報誌の配布・インターネットでの情報公開 コンタクトの仲介 ボランティア演奏会の実施 業績の公開・利用者の声などの紹介 随時、新たな情報の受付 情報の更新・情報の発信 まなび情報・文化振興課とのリンク	

具体的内容	音楽団体・サークルのボランティア演奏希望と会場提供側の情報を整理して、ホームページ開設と情報紙配布によりお互いにコンタクトが円滑にとれるようにし、生涯学習を社会参加・貢献につなげる。	
利用媒体	情報誌・インターネット	
利用場面	発表の場を探す音楽団体、または発表団体を探す施設や会が情報として利用しコンタクトを取りやすくする。	
波及効果・連携事業	(財)横須賀市生涯学習財団の「まなび情報」との連携 横須賀市役所企調整部文化振興課との連携	
案内広報方法	ダイレクトメール、ホームページ	
企画書バージョン	Ver.1	
作成日	平成 19 年 7 月 13 日	
作成者	津野久美子	

(3) 今後の展望

ここではボランティア演奏をしたい学習者とボランティア演奏を待ち望む現場を対象に、ネットワークを作り、「演奏ボランティア情報」を企画した。これは独自の情報誌やホームページだけにとどまらず、横須賀市生涯学習財団のホームページの「Yokosukaまなび情報」や文化振興課、福祉関連施設などとリンクし、より広く多くの人たちの目に触れ、利用されることを期待する。

そして将来的にはさらに広げてボランティア演奏に限らず、公的なイベント(市民まつりや観光 PR イベントなどでのステージ)などの情報や、さらにはレストランやデパートの音楽広場など、市役所の市民ステージなど生涯学習が横須賀の文化につながるような“発表の場”も情報発信できるようなものにしていきたい。文化振興課の「文化活動の場の充実」という現在進行中の検討課題と接点も持ちながら、多方面で学習者が生き生きとした活動のできる充実した情報ネットワーク作りを目指したい。

おわりに

横須賀市の生涯学習音楽活動の発表型の現状と意識を調べた結果、学習者からは、学習したことを生かしたい、ボランティア活動として発表したいという声を聞いた。それは今までの公民館文化祭での発表とは違った新しい発表の形と言える。ボランティアを受ける現場でもその発表形態を歓迎したいとのことであった。この両者の意識をうまくつなげるパイプがあったら、生涯学習の成果を社会に還元する方法として活用されるのではないだろうか。学習したことをボランティアという形で発表することは、学習意欲に効果的である。他者に歓迎され喜んでもらえる発表は、立派なホールでなくとも遣り甲斐のあるものである。ボランティアで演奏させてもらうことは、優しい街づくり人づくりにも繋がり、学習が個人的な域にとどまらない素敵な可能性もある。

そこで、「サークルと発表の場を結ぶ情報コーナー」を設ける企画をした。「Yokosuka まなび情報」には今現在、講師情報とサークル情報がある。この二つの情報は学習を始める際に活用されるものであり、すでに学習し音楽活動を継続する人たちに必要な情報が「発表の場情報」であると考え、生涯学習を生きたものにする「サークルと発表の場を結ぶ情報コーナー」の企画をまとめた。時代の移り変わりとともに変化した学習者の意識を調査した結果として、この企画は学習者に必要とされる支援のひとつであると推察した。

また、文化振興課が市内の公共施設で音楽演奏発表の場を探しているという情報があり、市役所・文化振興課主査に話を聞いてみた。文化活動の場の充実を図る目的で、新たに会場を作るのではなく今ある施設を上手に使うミニコンサートを企画したいとのことであった。

ボランティア演奏を希望する学習者の声が多いことから、高齢者施設や福祉施設、学童保育、病院などを会場として考えることを提案した。当初、市役所の玄関ホールや美術館エントランスなど広く一般に誰でも観賞しやすい場を探しているとのことであったが、たとえ限られた人向けであっても「文化活動の場の充実」につながるひとつの方法であると理解を示してくれた。このことから、「発表の場情報」は必要である。

「音楽ボランティア情報のネットワーク作り」の企画に至る過程で、たくさんの人に話を聞くことができた。学習者からの生の声は当初レポートに書くと思っていた内容と違う方向であることを気付かせてくれ、軌道修正の必要があった。また、介護福祉士から現場の現状を聞いたことは、ボランティア演奏にもっと積極的になっていいのだと勇気もらった。そして、行政側も、現

状に見直しの必要から新しい方法を検討しており、学習者にとって市民にとってよりよいものを提供しようと努力しているのを感じた。このようにたくさんの方のお力添えでこのレポートを書き上げることができ、感謝している。そして、生涯学習音楽指導員として学習者とともに感動と喜びのある音楽指導・活動を心がけ、勉強していきたいと改めて感じている。

このレポートの全体の流れは次のようである。

現状調査

横須賀市行政の生涯学習発表型に対する支援状況

学習者へのアンケート調査

指導者・代表者へのインタビュー調査

介護福祉士へのインタビュー調査

行政へのインタビュー調査

- ・ 公民館「友の会」窓口担当者 9 人
- ・ 元福祉課課長
- ・ 文化振興課主査

課題

現状調査からわかったこと

- ・ 公民館文化祭のあり方について見直しの時期にきていること。
- ・ 「社会参加・社会貢献につながる発表の場」の情報がないこと。

「音楽ボランティア情報のネットワーク作り」が行政の文化生涯学習活動事業支援のひとつにならないだろうか。

結論

- ・ 身近でボランティア活動に生涯学習音楽を生かせる『音楽ボランティア情報のネットワーク創り』の企画提案。
- ・ 将来的には、横須賀の文化につながるような“発表の場”も情報発信

【注】

- (注 1) 参考資料 1 を参照
- (注 2) 正確な数字がつかめていないのが実情のようである。2 箇所以上の公民館に団体登録している団体も少なくなく、また、登録後 1 回だけ利用してあとは利用のない団体や、現在は解散したと思われる団体も登録されたままという状況で、生涯学習をしている団体数の正確なところは不明である。
- (注 3) 参考資料 1 を参照
- (注 4) 財団法人実務教育研究所「生涯学習指導員養成講座」第 単元
2003 年 P.30 より
- (注 5) 参考資料 2 を参照
- (注 6) 参考資料 3 を参照
- (注 7) 参考資料 4 を参照
- (注 8) 文化生涯学習活動事業助成金は総事業費の 2 分の 1、上限 10 万円の経費を支援してもらえるもので、申請し(財)横須賀生涯学習財団の理事会での承認が必要である。
- (注 9) 参考資料 5 を参照
- (注 10) 9 団体中、6 団体が発表の機会はある、まあまあある、と回答している。
- (注 11) 指導者・会の代表者のインタビューにより、音楽ホールでの発表会が「ホール」という回答になっていることがわかった。これは音楽協会や合唱連盟などの音楽祭参加や、その会独自の発表会などがこれにあたる。

【参考文献】

- ・ Yokosukaまなび情報：<http://www.mmjp.or.jp/shogaigakushu/>
- ・ 財団法人横須賀生涯学習財団の経営状況説明書
(平成15年度・16年度・17年度)
- ・ 久保田慶一著 音楽の友社「音楽の文章セミナー」
- ・ 「横須賀の文化の新たな道しるべ・文化振興条例」横須賀市
- ・ 財団法人実務教育研究所 「生涯学習指導員養成講座」

【参考資料】

- ・ 資料 1 . 「まなび情報」にみる横須賀市内で生涯学習活動するサークル
- ・ 資料 2 . 事業報告(公民館運営事業)にみる音楽事業
- ・ 資料 3 . 生涯学習財団後援名義使用承認状況
- ・ 資料 4 . 文化生涯学習活動事業助成の推移
- ・ 資料 5 . 指導者・代表者向けインタビュー内容のポイント
- ・ 資料 6 . 学習者向けアンケート用紙
- ・ 資料 7 . 学習者アンケートの年齢層と人数

(財)横須賀市生涯学習財団、経営状況説明書にみる音楽事業の現状

受託生涯学習事業(公民館運営事業)

	15年度		16年度		17年度	
1	はじめてのウクレレ	全6回20人	追浜公民館コンサート	220人	追浜公民館コンサート	177人
2	追浜市民サロン	856人	追浜市民サロン	1185人	追浜市民サロン	1607人
3	魅惑の室内楽コンサート	86人	田浦公民館コンサート	180人	田浦公民館コンサート	218人
4	演奏会・津軽三味線の夕べ	333人	さわやか合唱祭・たうら	215人	さわやか合唱祭・たうら	236人
5	さわやか合唱祭・たうら	300人	衣笠ひまわりコンサート	325人	津軽三味線コンサート	280人
6	田浦公民館文化祭	2117人	田浦公民館文化祭	2678人	田浦公民館文化祭	2275人
7	逸見公民館の集い	1,094人	みんなでコーラス	225人	生ギターでフォークを歌おう	1回42人
8	逸見公民館コンサート		衣笠公民館友の会文化祭	1485人	衣笠公民館友の会文化祭	1441人
9	弦楽合奏の響	141人	フォークポップスくらぶ	3回51人	大津サマーナイトコンサート	160人
10	みんなでコーラス・衣笠	179人	大津サマーナイトコンサート	142人	アシストコンサート	532人
11	衣笠公民館友の会文化祭	1814人	大津公民館文化祭	2524人	逸見公民館メイプルコンサート	157人
12	コーラスしっかり基礎講座	10回60人	逸見公民館の集い	893人	逸見公民館の集い	933人
13	大津サマーナイトコンサート	150人	逸見公民館コンサート	35人	親子で楽しくリトミック	3回77人
14	大津公民館文化祭	2189人	アシストコンサート	250人	大津公民館文化祭	2349人
15	浦賀スプリングコンサート	300人	親子で楽しくリトミック	5回80人	久里浜ニューイヤーコンサート	120人
16	浦賀公民館文化祭	1431人	浦賀公民館文化祭	1736人	久里浜公民館の集い	1171人
17	久里浜バレンタインコンサート	250人	浦賀スプリングコンサート	164人	北下浦クリスマスコンサート	120人
18	久里浜公民館の集い	1067人	久里浜公民館の集い	1111人	北下浦公民館文化祭り	1049人
19	尺八入門講座	7回26人	久里浜サマーナイトコンサート	170人	西公民館ニューイヤーコンサート	205人
20	音楽鑑賞講座	4回35人	北下浦サタデーコンサート	180人	ロマン派の名曲観賞	4人
21	手話でコーラス	3回27人	北下浦公民館文化祭り	1023人	西公民館友の会文化祭	1802人
22	北下浦公民館文化祭り	1100人	西公民館友の会文化祭	2361人		
23	北下浦サタデーコンサート	160人	西公民館コンサート	212人		
24	ドイツ音楽紀行	15人	大正琴入門	5回22人		
25	おやじ組コンサート	125人				
26	西公民館友の会文化祭	2721人				
27	JAZZコンサート	182人				
体験型	4	133人	3	286人	2	119人
鑑賞会参加型	12	14993人	11	15436人	9	12863人
観賞型	11	2746人	10	1878人	10	1973人
音楽系事業数	27		24		21	
公民館総事業数	181	24,773人	185	26,039人	198	23,691人

後援名義使用承認

	15年度	16年度	17年度
	フレンドシップコンサート	さくらコンサート	横須賀子ども音楽セミナー
	市民コーラスと菅原洋一の集い	フレンドシップコンサート	市民コーラスと小椋桂の集い
	市民吹奏楽団定演	市民コーラスとトワ・エ・モアの集い	フレンドシップコンサート
	公民館コーラス	市民吹奏楽団定演	市民吹奏楽団定演
	かたりよみと琵琶演奏の夕べ	公民館コーラス	シャンソン&ダンス公演
	合唱団 20 周年記念演奏会	合唱団 5 周年記念発表会	公民館コーラス
	ソプラノリサイタル	コールパルコンサート	吹奏楽団定演
	コーロ・エコー10 周年演奏会	きょうは私がピアニスト	ナターシャ・グジー コンサート
	クリスマスコンサート	メゾソプラノリサイタル	体験学習支援音楽会
	第 1 回プチ・コンサート	マンドリンアンサンブル定演	コール・アゼリア ジョイントコンサート
		合唱団 35 周年記念演奏会	大正琴発表会
		コール・アゼリア ジョイントコンサート	ニューイヤーコンサート
		合唱団第 1 回演奏会	合唱団 25 周年記念演奏会
合計	10 件(37 件中)	13 件(34 件中)	13 件(39 件中)

文化生涯学習活動事業助成

	15年度		16年度		17年度		18年度
助成金(予算額)		2,118,000		2,118,000		2,118,000	2,118,000
助成金(決算額)	12件	987,000	19件	1,442,966	19件	1,534,038	
音楽系事業	市民吹奏楽団定演	100,000	市民吹奏楽団定演	100,000	フレンドシップコンサート	50,000	
	公民館コーラス	62,000	公民館コーラス	62,000	市民吹奏楽団定演	100,000	
	合唱団20周年記念 演奏会	100,000	合唱団5周年記念発表会	50,000	シャンソン&ダンス公演	100,000	
	コーロ・エコー10周 年演奏会	100,000	メゾソプラノリサイタル	50,000	公民館コーラス	62,000	
			マンドリンアンサンブル定演	100,000	体験学習支援音楽会	100,000	
			合唱団35周年記念演奏会	50,000	合唱団25周年記念演奏会	100,000	
			合唱団第1回演奏会	80,000			
合計	4件	362,000	7件	492,000	6件	512,000	

指導者・代表者の方へのインタビュー調査

1. どのくらいの期間、この活動の支援・指導をしていますか？
2. サークルの会員数は
年齢層は
男女比は
3. 活動のペースは
4. まなびかん情報に登録していますか
5. 公民館友の会に加入していますか
6. 発表会・演奏会の経験は
どのような場でしたか。
7. 独自の演奏会をしたことはありますか？
8. 横須賀市の後援名義をしようしたことはありますか？
9. 学習財団の助成金をもらったことはありますか？
10. 発表する場は必要でしょうか？
11. 発表する場はどのように情報を集めていますか？
12. どのような発表の場を希望しますか？

学習者アンケートの年齢層と人数

10代	8人
20代	0人
30代	8人
40代	16人
50代	32人
60代	38人
70代	16人
80代	0人
それ以上	0人
無回答	1人
総数	119人

